

文教協会報

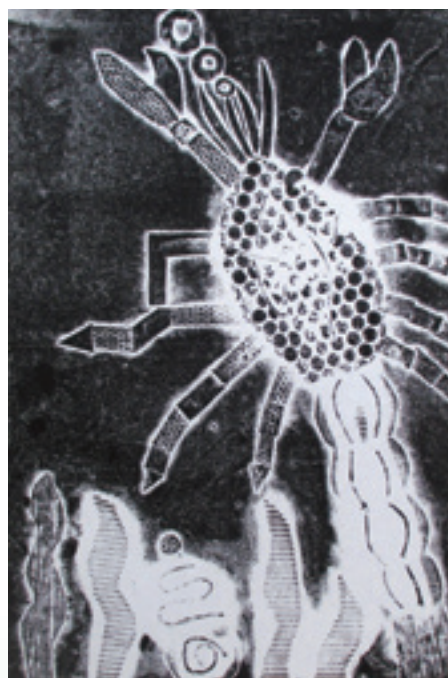
No.680

(令和5年7月)

まなびの泉
心のかよいあい

わくわく協働活動
ぬくもり
ふるさと・再見
声 こえ VOICE
～文教のまち 大垣～
ふるさと美術散歩④

大垣市防災教育プラン～自分の命は自分で守る児童・生徒の育成～…2
子どもも親も笑顔に向かって（綾里幼保園）……………3
すべてはこれからの子どもたちのために（南小学校）……3
SDGs推進に向けたプロジェクト……………4
インターネットについて考える……………5
飯沼悠斎著 植物図鑑『草木図説』……………6
大垣市郷土館の役割……………7
第60回 大垣市文教協会総会……………8
大垣市守屋多々志美術館を訪ねて……………8



大垣市立川並小学校児童の作品



大垣市防災教育プランー自分の命は自分で守る児童・生徒の育成ー

私たちは昔から数多くの災害に見舞われ、自然の恐ろしさを体験してきました。しかし、時間が経ち、日常生活が戻ると、被災の記憶は薄れがちです。天災は忘れたところにやってきます。東日本大震災から12年が経過しました。過去の教訓から、「命を守ることを最優先」にして、日頃から児童・生徒に生き抜く力を育成していくことが求められています。各学校の防災教育について、令和3年度の『文部科学白書』では、以下のように記されています。

…児童・生徒等に自らの命を守り抜くための「主体的に行動する態度」等を身に付けさせるため、学習指導要領等に基づき関連教科や特別活動など学校の教育活動全体を通じて行われています。

本市でも、「自分の命は自分で守る児童・生徒の育成」のため、大垣市防災教育プランを作成しました。

R5 大垣市防災教育プラン（案）ー自分の命は自分で守る！児童生徒の育成ー	
＜ふるさと大垣科にみる大垣の災害＞	
○洪水・土砂災害被害の大きい地域	○地震・活断層の影響が考えられる地域

[R5 大垣市防災教育プラン（案）より一部抜粋]

そして、岐阜大学村岡治道特任准教授をアドバイザーに迎え、「防災教育研究会」を中心にして、防災教育の見直しを行っています。

防災教育研究会では、主に次のことを重点にして、研究・実践を行っています。

- ①体系的・系統的な防災教育の研究→教科の授業の中に、防災教育を取り入れる。
- ②日常的に実施する防災教育（命を守る訓練の見直し）→「命を守る訓練」を児童・生徒に予告なしで実施する機会を作ったり、また避難経路が遮断された場合を想定したりして、より災害時に近い想定で訓練を行うようにする。

こうした取組を各小・中学校に広め、どんな状況になっても「自らの命を守り抜くために行動する態度」が身に付けられるようにしていきたいと考えています。



ダンゴムシの姿勢を正しく（綾里小学校での防災講話）

（学校教育課 鈴木 宏教）



子どもも親も

笑顔に向かって

綾里幼保園 PTA会長 坪井 小百合

昨年度までは、コロナ禍で園に集まっていた活動がなかなか出来ず、寂しい思いをしました。今年度も規制緩和はされますが、まだまだ不安なニュースが多い中、子どもも親も笑顔が1番ということで、綾里幼保園ではスローガンに【笑顔全開 ～みんな仲良く・元気よく～】を掲げ、みんなが笑顔になれる取組を計画しました。

笑顔でいられるために、1番に考えたことは環境作りです。奉仕活動の一環で、毎月1クラスずつ園の草取りを行います。子どもを見守ってくださる先生方や、子どもたちが安心して気持ちよく登園できるように、昨年度より回数を増やしました。

そして、PTA家庭教育学級の行事で「あわボール（バスボム）作り」を行いました。重曹とクエン酸をボウルに入れ、ビニール手袋をした子どもたちに混ぜてもらいます。そこに少量の水を霧吹きで吹きかけ、ビニール袋の外側から握り、固めます。子どもからは「砂遊びみた

い～」 「おにぎりを作っているみたい～」と、楽しい声が聞こえてきました。出来た「あわボール」は持ち帰ってもらい、お風呂に入れて各家庭で遊んでもらいました。子どもの作る楽しさと、お風呂キライなお子さんを楽しませたいという親の思いが詰まった取組が出来たと思っております。

また、秋には毎年恒例行事の「たこ作り・たこ揚げ」を予定しています。いつも優しく見守ってくださる地域の方々と交流が出来る機会なので、大事にしていきたいと思っております。

新しいライフスタイルのなかで、少しずつ活動を活性化させ、親子ともども楽しい園生活が送れるように、PTA役員一同、精一杯頑張っていきたいと思っております。



あわボール作りの様子

すべてはこれからの 子どもたちのために

南小学校 PTA会長 加藤 貴裕

みなさんは、小学生の時のどんな思い出をお持ちですか？ 私は、良いもの苦いもの含めて色々な思い出がありますが、今考えると、先生方のご尽力もありながら、PTAの存在があったことを思い返しております。

コロナ禍が日本中の小学校に大きな影響と変化をもたらしました。行動の制限、マスクが当たり前、イベントは縮小や中止…。そのコロナ禍が明けつつある今、社会だけでなく、PTAの在り方も変化を求められていると思います。



広報誌「みなみばし」

本年度の活動テーマは「温故知新」、古き良き大切なものを残し、新しい時流を読み、より良い環境を創る1年にしたいと思っております。「withコロナ」と呼ばれるこれからの活動で目指したいのは、持続可能なPTA活動です。PTAの活動に目を向けると、保護者と学校をつなぐ活動が

数多くあります。

バスマーク収集活動は、親子で一緒に取り組む活動であり教育現場をより良くするための設備を用意できます。

広報誌作成は、普段見られない子どもたちの姿や頑張りを見るだけでなく、先生方との懸け橋となっています。

はつらつ学級（家庭教育学級）では、大人の学びの場を提供することで、時流を掴む機会や子どもとのコミュニケーションを学ぶ機会を創出しています。

そのほかにもPTA活動はありますが、負担が大きすぎるとは担い手が出てこず、続けていきません。本質的にPTAに求められているものは何か、今の時流で持続可能な活動を行うにはどう仕組みづくりをしていくのか、数年にわたり効率化と省力化を念頭に見直し活動を継続中です。保護者と教員が協力し合うPTAにおいて、守り続ける部分、新たに手を加える部分を見極め、今後も長きにわたり子どもたちの教育環境を守る組織でありたいと思っております。



PTAの学びの場「はつらつ学級」

SDGs推進に向けた プロジェクト

持続可能な世界を目指すための国際目標であるSDGs。大垣市では、社会教育や家庭教育の充実を図るため、SDGsをテーマとする講座等を実施している企業との間で、令和4年3月に連携協力に関する協定書を締結しました。

その企業とは、株式会社リリフル、株式会社艶金、サンメッセ株式会社の3社で、不要になったものを活用する「マーブルクレヨンプロジェクト」という取組を実施しています。



協定締結式の様子

このプロジェクトは、折れたり短くなったりして不要になったクレヨン回収し、新たなクレヨンとして再生するものです。市内のショッピングセンターなどに、回収ボックスを設置しています。

回収したクレヨンは、刻んで型に入れ、熱して溶かしてから冷やし固めますが、複数の色を混ぜることで、大理石の模様のようなカラフルな「マーブルクレヨン」が完成します。



マーブルクレヨン

令和4年度には、幼稚園2園、小学校2校、社会教育団体2講座で、子どもとその保護者を対象に、ワークショップが行われました。

作業は、汚れたクレヨンの表面を油でふき取ることからスタートします。きれいになったク

レヨンを色分けした箱に入れ、それぞれをカッターで細かく削っていきます。

その後、子どもたちは、シリコン製の型にクレヨンを思い思いの色を混ぜて入れます。どんな色あいになるかは、完成までのお楽しみです。レンジで約6分加熱して冷ますと、「マーブルクレヨン」の出来上がりです。



オリジナルのクレヨンを作るぞ！

ワークショップでは、クレヨンが完成するまでの間、マーブルクレヨンプロジェクトの取組の説明や、環境問題を考えるための三択クイズなども行われ、子どもも大人も熱心に耳を傾けていました。

ワークショップ終了後、参加した子どもたちからは、さまざまな感想が寄せられています。

- 体験してみて楽しかったので、またやりたい
- SDGsのことを人に教えたくなった

○使えるものは最後まで使いたい

○ゴミを減らしたい

○捨てる前に、使い道がないかを考えたい

さらに保護者からは、

◇子どもと一緒に楽しく参加できた

◇“もったいない”を子どもと一緒に学べ、話す機会を得た

◇捨てるものを再利用する取組が素晴らしいという声が寄せられました。

大垣市では、今年度も継続してマーブルクレヨンのワークショップを開催していきます。

地区センターなどを会場に、園や学校の家庭教育学級で、または、社会教育団体の講座として、ぜひ開催してみませんか。

ぜひ多くの方に体験していただきたいと思います。

(社会教育スポーツ課 田中 真貴)

ぬくもり

インターネットについて考える

1 インターネットの特性とは

時代とともに、様々なものやことが進化しています。特に、インターネットの世界では、想像できないことばかりです。こういった中、個人情報などの違法な取り扱いや有害サイトへのアクセスなど、心配は絶えません。私たちが正しく内容を熟知し、利用する判断力が求められています。まずは、インターネットの一般的な特性を紹介します。

(1) 広く公開される性質

お互いに分かり合っている者同士であっても、書き込み等を行うことで、世界中の人も閲覧できてしまいます。それは、自分以外の人、意図的に他のサイト等へ書き込む可能性もあるからです。

(2) 取り消しができない性質

一度写真のデータを投稿すると、そのサイトのサーバー等にデータが保存されるため、自分の端末上で削除をしてもサーバーのデータを削除しない限り、半永久的に残ってしまいます。

また、誰かが端末に保存した場合も、完全に取り消すことはできなくなります。

(3) 匿名であっても判明する性質

匿名で投稿しても、犯罪等に関する内容であれば、誰が書いたなど様々なことが分かります。「いつ、どこで、どの機器から書き込んだものか」という記録が残ります。

以上の3つの特性を子どもたちに理解させることに加え、それぞれの場面に応じて一人一人が気を付けるべきことを考えることが大切です。みなさんもチェックしてみましょう。

- ☐書き込みやメッセージは、誰が見ても、自分も他人も傷つけない内容になっていますか。
- ☐インターネットの送信ボタンを押す直前まで、「本当にこれでよいか」と自問自答し、書き込む内容をしっかりと確認していますか。
- ☐日頃から、自分の発言（書き込み）によって相手がどう考えるか想像していますか。

2 情報機器との向き合い方を考える

学習場面で情報機器を利用することにより「学習記録」「検索機能」「データ送信」など、デジタルならではの便利さが得られます。本市においても、ICTを活用した授業実践が増え、一人一人の蓄積した情報もその分、クラウドストレージ等に蓄えられています。そういった中、次のような声についてどう考えていけばよいでしょうか。

○インターネットを使って調べたいことを検索することはとても便利です。子どもたちも分かったことをノートに書き留める様子が見られます。しかしながら、出てきた情報が本当に正しいかどうかを見極められず、全て書き留めてしまうことで満足する傾向があります。

SNSや掲示板サイト、フェイクニュースなどがある現代です。インターネットの世界には、文字情報や画像データがたくさん溢れています。最近では、『Chat GPT』という言葉も耳にします。こういった情報とどのように向き合っていけばよいのでしょうか。次の場面で考えてみましょう。

(1) 学校生活

・「○○というタイトルの本に～と書いてあったよ」「インターネットで○○についてこうやって書いてあったよ。」という場面
→例えば教師や他の子どもは「本当にそうなの？」とその情報が正しいかどうか考える場面を作りたいものです。

(2) 家庭

・テレビのニュースで聞こえる内容について「○○さんってこういう人なんだね」と会話する場面
→例えば「何か理由があったんじゃないの？」と、違った視点で促すことができないでしょうか。一方通行な見方や考え方によって、多様性を失ってしまう可能性があります。今の時代の子供たちにどんな働きかけをすることが適切なのか慎重に考えていきたいものです。

(大垣市教育総合研究所 棚橋 直仁)

●ふるさと・再見●

よくさい 飯沼慾斎著 植物図鑑『草木図説』KAGAYAKI SPOT

今年の朝ドラ『らんまん』の主人公のモデル、牧野富太郎（1862-1957）は、「日本植物学の父」といわれ、明治から昭和にかけて活躍した近代植物分類学者として知られています。

牧野富太郎よりも以前、江戸時代の末、現代につながる植物図鑑を著した人物が大垣にいました。

大垣の科学者飯沼慾斎（1783-1865）です。

慾斎は、蘭方医（西洋医学）として評判の町医者であり、また本草学（植物学）、鉄砲の火薬製造、写真術など、多岐にわたり研究した科学者でもありました。天保3年（1832）慾斎50歳のとき隠退し、長松村（現在の大垣市長松町）に別荘「平林荘」を建て、邸内に数百種の植物を植え、研究に専念しました。

1 植物図鑑『草木図説』

『草木図説』は、スウェーデンの植物学者リンネによる分類法で、「綱」「目」「属」「種」の階層を定め、日本の植物（草類1215種、木類600余種）を分類し、正確な図をつけた植物図鑑です。

平林荘での20年近くにわたる研究ののち、安政3年（1856）74歳のときから文久2年（1862）80歳のときにかけて、4回にわけて『草木図説』（草部）20巻を出版しました。

ちなみに『草木図説』（木部）10巻は、原稿のみで伝わり未刊でしたが、昭和52年（1977）、植物学者北村四郎氏により編註、発刊されました。

2 『草木図説』執筆への思い

『草木図説前篇引』という序文には、慾斎が執筆するにあたっての思いが記されています。

「未明の植物を東洋の本草学を基礎に西洋の植物学を加えて詳しく調べる必要がある」とし、「植物を説明するには、図と文章が必要である」こと、そして「自分は絵の才能はないが、絵師に描かせては私のねらいとする正確な絵にならない」と考え、「自分でありのままのかたちを正直に正確に描くこと」とし、「日本に渡来した植物も研究対象とすべきである」と考えました。



ヒマワリの図と解説

田中芳男ほか編『新訂草木図説』（大垣市立図書館蔵）より

3 『草木図説』の反響

慶応元年（1865）慾斎が83歳で亡くなったあとも、『草木図説』は国内外を問わず、その科学的な分類方法と正確な図が高く評価されました。

海外では、フランスのフランセーとサバチエ共著『日本植物名彙』の中で「偉大なる観察の才能と真の科学を表している。特に植物の姿はよく出来ている」と紹介されました。

国内では、明治8年（1875）博物学者・農務官僚の田中芳男らにより『新訂草木図説』が出版されました。さらに明治40年（1907）から大正2年（1913）にかけて、前述の牧野富太郎により『増訂草木図説』全4冊が出版されました。

『増訂草木図説』は、学名が再訂され、解説が補われ、部分図や解剖図が追加されました。富太郎は、序文で、「我が国で最初の、日本人による学術的に植物を分類した本である」と賞賛しました。

そして、『草木図説』の発刊から約80年後の昭和15年（1940）牧野富太郎による『牧野日本植物図鑑』が出版されました。

『草木図説』同様、精密な植物の図画と解説が記されています。

※年齢は数え年で表記しています。



牧野富太郎編
『増訂草木図説』
（大垣市立図書館蔵）

参考文献：飯沼慾斎生誕二百年記念

編集委員会編『飯沼慾斎』

昭和59年発行

（図書館 歴史研究グループ 長瀬 とも）

大垣市郷土館の役割

大垣市郷土館館長 早野 壽人

大垣市郷土館（通称郷土館）は、昭和60年10月9日に、戸田公入城350年の記念事業として開館しました。この館の役割は、歴代大垣藩主戸田公の顕彰を中心に、郷土大垣の歴史的風土を築きあげてきた先賢を偲ぶとともに、ふるさとの生い立ちと現況など、楽しみながら理解していただくことです。今年郷土館は開館38年目をむかえ、たくさんの方の入館者をお迎えしています。そこで、郷土館の文化財の魅力を紹介したいと思います。

1 郷土館はどこにあるの？



郷土館は、「大垣市丸の内2丁目4番地」にあり、家老戸田鋭之助邸にあった門と黒塗りの塀（舟板塀）を移築してつくられた文化施設です。門を入ると

枯山水の日本庭園に枝垂れ桜があり、春にはきれいな花を咲かせます。庭園は無料なので、庭を利用して結婚式の前撮りや成人式の帰りに写真を撮られる方もいます。



大垣市郷土館

2 郷土館にはどんな展示があるの？

常設展示は、ロビーに「関ヶ原合戦図屏風（複製）」（開戦前日の東軍岡山（現お勝山）、西軍大垣城の配置がわかるもの）「初代戸田氏鉄公騎馬像」「11代戸田氏共公胸像」「大垣城郭模型」等があります。

戸田公顕彰室では、「藩祖と戸田公11代の藩主の肖像」と業績や、近世・近代に活躍した大垣市出身の人々の業績を紹介しています。藩祖一西公・初代氏鉄公使用の甲冑や地元で作られた刀剣・火縄銃も展示しております。

郷土歴史室では、埼玉県行田市に寄贈された、「関ヶ原合戦図屏風（右隻）」の複製や、江戸時代の大垣祭で使用された朝鮮人行列の道具類

や市内文化施設の紹介、市内中世城郭の様子や西濃地域の河川の変遷、大垣藩の御庭焼である「巨鹿城焼」等が展示してあります。

郷土美術室では、毎年テーマを変えて、企画展や所蔵品展を開催しています。

企画展は、地元の文化人や文化財に関わる展示を行っています。

所蔵品展では、所蔵品の中から様々な切り口



大橋翠石作「猛虎図六曲金屏風（右隻）」

で作品の展示を行っています。例をあげると、大橋翠石の虎の絵を中心とした

「郷土の画人展」。「大垣祭図巻」を中心に大垣祭の今・昔を紹介した「絵で見る大垣祭展」。大阪市・彦根市・関ヶ原町・行田市・岐阜市に残る関ヶ原合戦図関係の屏風や絵巻物と、関ヶ原合戦と大垣の関係を紹介した「関ヶ原合戦と大垣展」の展示があります。

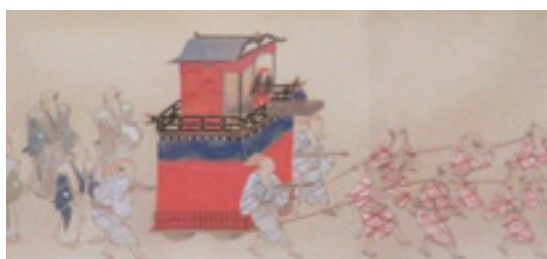
2階の画廊では、地域の様子や文化財がわかる写真展（輪中・自然災害・サツキ・大垣祭・市の文化財・芭蕉関係）や拓本・風、国宝時代の大垣城と全国のお城を写真で紹介しています。

2階和室では、中・近世に関わる各種講座や紙細工・風づくり教室等を行っています。

3 郷土館のさらなる活用を

郷土館は、観光や研修を目的にしたお客様の利用が多いですが、地元の各小中学校や近隣の高校にもご利用いただいております。

ぜひ郷土館で郷土の歴史を学んでいただきたいと思います。



大垣祭図巻



～ 文教のまち 大垣 ～

第60回 大垣市文教協会総会

令和5年5月26日（金）第60回大垣市文教協会総会を大垣市情報工房において開催しました。会場では、参集された役員、特別会員の皆様、各学校・各園の代表の皆様、学校・各園の教職員、賛助会員の皆様にオンラインでつなぎ、総勢800人を超す参加者で、開催しました。

第1部の総会では、市長石田仁様からご祝辞を頂戴しました。そして、木村志朗副会長が、小川信也会長のメッセージを代読されました。メッセージでは、「コロナ禍における教育現場への感謝、子ども達が活力を取り戻していける環境づくりへの必要性、60周年を迎える準備」について述べられました。続いて、令和4年度事業並びに決算報告、令和5年度事業計画並びに予算が報告されました。



第1部 総会の様子

第2部では、岐阜大学教育学部副学部長山田敏弘様より、『ふるさとを愛する子どもを育てる学校教育』と題してご講演いただきました。ふるさと大垣科での実践について評価していただき、課題についても言及されました。方言を活用した俳句作りなど、今後のふるさと大垣科への方向性も示していただきました。

山田教授は、「ふるさとを愛する気持ちを醸成するには、まずふるさとのことば＝方言を愛する気持ち、次に日本語共通語と使い分ける力を付けること」というメッセージで講演を締めくくられました。ふるさとの言葉について、子どもたちとともに見つめ直していこうと考えることができました。



第2部 山田教授の講演

（学校教育課 鈴木 宏教）

ふるさと美術散歩④ 大垣市守屋多々志美術館を訪ねて



《繭の傳説》平成6年（1994）（大垣市蔵）

歴史上の人物や出来事を題材とした作品を「歴史画」といい、守屋多々志はその第一人者として活躍してきました。その題材は日本のみならず、アジア・欧米などの国際交流にも深い関心を寄せています。

今回紹介する「繭の傳説」は、国際交流の代表ともいえるシルクロードを舞台とした作品で、三蔵法師が記した『大唐西域記』中にある「蚕種西漸伝説」を題材としています。

中国が起源の絹は当時、高価な輸出品であり、養蚕の技術は門外不出のものでした。そこで、シルクロードの中継地・タクラマカン砂漠南の于闐の王は、中国から嫁いでくる王女に養蚕を教えるよう頼み、王女は繭を嚙（まげ）に隠し、養蚕を伝えたといわれています。

画面のほとんどを占める荒涼とした砂漠を、追手が来ないか不安そうに振り返る王女。その様子に対して、すまし顔なラクダの表情はとてもユーモラスで印象的です。

実は、ラクダは目や鼻に砂が入りにくいう、まつ毛は非常に長く、鼻の穴を開閉できる構造となっているのです。作品の背景には砂が舞っていることから、風が強くてこのような表情になっているのでしょう。

守屋は第二次世界大戦中、中国で従軍しており、馬やラクダの輸送を経験しました。その観察眼をもって描写には自信があったそうで、この作品にも存分に発揮されているといえます。

企画展「かわいいこども どうぶつたち」
会期：令和5年7月22日（土）～9月24日（日）
かわいい動物や小さな子どもたちが場面に出てくる作品、童話挿絵を中心に展示します。

